

ハ一毛二一

—^{とも}共に^い生きるなかま—

活用の手引き



目 次

テキストの作成にあたって	2
ランドセルは何色ですか?	4
家ではだれがどんな仕事をしているの?	5
【ワークシート1】	6
【資料】	7
あなたはいくつしているの?	8
このマンガへんだぞ!	9
女のしごと? 男のしごと?	10
【ワークシート2】	11
生き生き働いているね	12
会社の中を、のぞいてみたら・・・	13
【聞き取りカード】	14
自分の気持ち、言ってますか?	15
自分らしさって、なあに?	16
【ワークシート3】	17
共に生きるなかま	18

テキストの作成にあたって

男女平等については、日本国憲法(第14条)でうたわれており、男女雇用機会均等法などで法律的にも認められています。しかし、大人の社会、家庭、学校の中を実際に見てみますと、まだまだ、性別によって生き方、考え方、役割、行動のしかたなどを決めてしまうような意識、慣習、伝統が残っています。そしてそれらは、無意識のうちに次の世代の子どもにも伝わっているのが現状です。

1999(平成11)年6月15日に成立し、同23日に公布、施行された「男女共同参画社会基本法」は、男女平等をいっそう進め、男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらず、それぞれの個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現を図るために制定されました。この法律では、「社会における制度又は慣行についての配慮」「家庭生活における活動と他の活動の両立」などの課題が述べられています。

この学習教材「ハーモニー」は、この新しい法律の趣旨に則り、男女共同参画社会を実現する上で障害になっている、日常生活における男女の役割に関する好ましくない慣習や伝統、私たち大人や子どもの心の内にある「偏見・思いこみ」に気づき、それらを改めていく態度と意欲と行動力を子どもたちに身に付けることを目的として作成しました。主に、5年生の道徳の授業で使用されることを想定していますが、他学年の授業においても、また、教科や特別活動、総合的な学習の時間などにおいても活用していただきたいと考えています。

具体的には、学校、家庭、地域社会の中の日常的な事例をいくつか取り上げ、それらが男女共同参画社会実現にとって好ましいものであるかどうかを子どもたちが考え、話し合うことができるように配慮しました。また、単に読むばかりでなく、調べたり、記入したりする作業的な学習ができるように工夫しました。

この学習教材「ハーモニー」を活用し学習することにより、子どもたちが、性別にとらわれず、自分らしさを発揮できるように育ててくれることを期待しています。

ランドセルは何色ですか？

【ねらい】

- ・持ち物の色によって、「男の子」「女の子」という決めつけがあることに気づき、自分や友だちの持ち物にも同じような決めつけがあることを知る。
- ・自分自身や学級の中にあるジェンダーに気づく。

【すすめ方と留意点】

- (1) P 2の文章を読んで、下の問いについて話し合う。
 - ・3つの問いを自分にあてはめて発表させる。
 - ・ランドセルの色は男女によって分かれていることが多いことに気づかせる。
 - ・ランドセルなどの色は、家族など身近な人のジェンダー意識の影響を受けやすいことに気づかせる。
- (2) P 2の文章にある「女の子だから赤いランドセル」ということについて話し合う。
 - ・自分のランドセルのたとえと比べて意見を出させる。
 - ・ランドセル以外のことも出させ、次の「あなたのこだわり度は？」につなげる。
- (3) P 3のこだわり度のチェックにおいて、12項目それぞれに「はい」か「いいえ」に○をつける。
 - ・自分の日常の生活を振り返り○をつけさせる。
- (4) 項目ごとに挙手し、意見の分かれたところについて話し合う。
 - ・「男の子」「女の子」のくくりで、物事を考えていることが多いことに気づかせる。
例えば11の項目では、「おとなしい」ことを「女の子」と結びつけて考えていることが、よいかどうかを問いかける。
 - ・少数意見を大切にす。

【資料】

ジェンダーとは

「女らしさ」「男らしさ」や「性別による役割」は、生まれたときからそなわっているものではなく、社会や文化がつくりあげたものです。このように「社会的・文化的につくりあげられた性差」をジェンダー（gender）といいます。

家ではだれがどんな仕事をしているの？

【ねらい】

- ・家事が一人に集中していることに気づき、自分が家族の一員として積極的に家事に参加しようとする態度を養う。
- ・家族によって工夫して家事を分担していることに気づく。

【すすめ方と留意点】

- (1) P4の絵を見て、気がついたことを出し合う。
 - ・絵はある家庭の一日の様子をあらわすこと、左右の絵では男女が入れ替わっていること、食器洗いをしている人の向こうで、テレビを見ている家族がいることなどに気づかせる。
 - ・具体的な場面を設定して、登場人物の思いや考えに立って演じ、話し合うことにより、子どもたちに自分自身の問題であることに気づかせる。
- (2) 自分の家庭では、だれがどんな仕事をしているかワークシート1（手引きP4）に書く。
 - ・ワークシート1の活用にあたっては、子どもの生活背景を十分考慮する。
 - ・項目については、各学級で決めてもよい。
- (3) ワークシート1を発表し、話し合う。
 - ・「男は仕事、女は家事・育児」という固定的な役割分業ができあがっている傾向があることに気づかせる。
 - ・家族の一員として積極的に家事に参加することが大切であることを感じ取らせる。
- (4) P5の絵を見て、家事について話し合う。
 - ・それぞれの家庭で、工夫して家事を分担していることに気づかせる。
 - ・自分の生活を見つめ直し、家族の一員として積極的に家事に参加する意欲を持たせる。

【ワークシート1】

あなたの家ではだれがどんな仕事をしていますか？

名前 ()

◎：ほとんどしている ○：ときどきしている ×：まったくしない

名 前					
ちようしょく 朝食をつくる					
ちようしょく あと 朝食の後かたづけをする					
せん 洗たくをする					
せん 洗たくものをほす					

あなたの家の仕事と4ページの絵を比べて気づいたことを書きましょう。

【資料】

いえ しごと
家ではだれがどんな仕事をしているの？

だんせい かじじかん ぜんこく
男性の家事時間（全国）

		しごと 仕事	かじいくじ 家事・育児	ごうけい 合計
へいじつ 平日	つま 妻	7時間04分	2時間48分	9時間52分
	おっと 夫	8時間38分	9分	8時間47分
にちよう 日曜	つま 妻	1時間41分	4時間15分	5時間56分
	おっと 夫	2時間30分	38分	3時間08分

資料：総務庁統計局「社会生活基本調査1991年」

妻の就業時間が週35時間以上

■ おとこ しごと おんな しごと かじ
男は仕事、女は仕事も家事も

ともばたら つま しゅうしゅうぎょうじかん じかん おっと しごと かじじかん くら しごと だんせい
共働きの妻（週就業時間35時間以上）と夫の「仕事と家事時間」を比べると、仕事はやや男性
ほうなが かじじかん あ じよせい ほう じかん いじょうなが おとこ し
の方が長いものの、家事時間を合わせると、女性の方が1時間以上長くなっている。「男は仕
ごと おんな しごと かじ じょうきょう
事、女は仕事も家事も」という状況があることがわかる。

（じえんだあ・ふりいBOXから）

しりょう みき おも か
資料を見て気づいたこと、思ったことなどを書きましょう。

あなたはいくつしているの？

【ねらい】

- ・身のまわりには自分でできることがたくさんあることを知り、自分でできることは、進んで実行する。

【すすめ方と留意点】

- (1) P 6の吹き出しや絵を見て気づいたことを出し合う。
 - ・自分の生活と比べて発表させる。
- (2) P 7の8に項目を入れさせる。
- (3) P 7の自立度のチェックをする。
 - 2…その日の服を自分で用意し、着ているか。
 - 5…ゴミを「もえるゴミ」「ビン・カン」などに分別して出すことができるか。
 - 7…目玉焼きをつくる、パンをトーストするなど、簡単な料理ができるか。などの説明を加え、自分の毎日の生活の場面とむすびつけて記入させる。
 - ・8に入れた項目について話し合う。
- (4) 友だちの自立度と比べる。
 - ・自分の自立度を発表し、友だちと比べることにより、気づいたことを出し合い自分の生活を見つめ直させる。

このマンガへんだぞ！

【ねらい】

- ・メディアの中には、女性と男性を分け、ジェンダーに基づいて描かれている場合があることに気づく感性を身につける。

【すすめ方と留意点】

- (1) P8のマンガを見て、「へんだぞ」と思うところを出し合う。
 - ・たかしさんに、「こわれたくらいで泣くなんて男らしくないぞ。」「男は、元気よく外で遊ぶものだ。」と言って、決めつけた兄の間違った見方に気づかせる。
 - ・あやとりが大好きなたかしさんをどう思うのか話し合い、自分自身の中にあるジェンダーに気づかせる。
 - ・実際にあやとりをさせ、その楽しさを体験させるのもよい。
- (2) 個々によく見たり、聞いたりしているメディアを調べる。
 - ・P9のワークシート「あれ？ へんだぞ」カードに、見つけたことを書かせる。
 - ・チェックしやすい教材の選び方
 - 登場人物が少ないもの
 - 子どもたちがよく見ているもの
 - ジェンダーがはっきり出ているもの
- (3) 書き込んだワークシート「あれ？ へんだぞ」カードをもとに気づいたことや考えたことを話し合う。
 - ・メディアの中には、「へんだぞ」ということがあることに気づかせる。
 - ・メディアの中には、家事をする女性の姿が多くえがかれていることを、言動等で詳しくチェックさせることを通して、気づかせる。
 - ・単なるチェックで終わり、ジェンダーの再生産にならないように十分配慮する。
 - ・具体的な場面を設定した劇や紙芝居などを作ったりして、ジェンダーをなくしていくよう発展的に取り組む。

女のしごと？ 男のしごと？

【ねらい】

- ・職業に対しての決めつけや偏見があることに気づく。

【すすめ方と留意点】

(1) 知っている職業名を発表する。

- ・ワークシート2（手引きP9）を使い、知っている職業名を書かせる。
- ・書かせた職業が、女だけ、男だけ、男女共に就いているか考え、○をつけさせる。

(2) P10、11を読んで気づいたことを出し合う。

- ・お兄さんとお父さんとの会話に着目させ、お兄さんとお父さんの仕事のとらえ方の違いについて話し合わせる。
- ・お父さんが、女の仕事、男の仕事と決めつけていることに気づかせる。
- ・「自分の仕事は自分で決める」という視点を大切に話し合う。

(3) 学習したことをもとに、家族から聞き取りを行い、話し合う。

- ・聞き取りをさせる場合、聞き取りカード（手引きP12）を準備する。
- ・保護者に、聞き取りが学習であることの理解を得るとともに、家族状況などについては十分配慮して実施する。
- ・学級で話し合ったことに対して家族はどんな感想をもったのかを出し合い、自分の考えをまとめるとめる。
- ・教科・領域や総合的な学習の時間などの活動と関連づけていく。

【ワークシート2】

おんな
女のしごと？ おとこ
男のしごと？

なまえ
名前 ()

- 1 あなたが知っている職業名を書きましょう。
また、その職業には男性、女性のどちらが多くついていますか。

知っている職業名	男性	女性

- 2 将来、あなたは、どんな職業につきたいですか。
その職業につきたいのは、どうしてですか。

生き生き働いているね

【ねらい】

- ・主体的に職業を選択して生きることを通して、自己実現を図っていくことの大切さに気づく。

【すすめ方と留意点】

- (1) P12、13の「生き生きと働いているね」を見て気づいたことを話し合う。
 - ・写真の人たちのように、女、男で仕事を分けず、自分でやりたい職業に就いている人たちがいることを知らせる。
 - ・仕事におけるジェンダーについて考えることを通して、自分の将来の仕事について関心をもたせる。
- (2) 写真や資料をもとに、自分の将来の夢や仕事について話し合う。
 - ・ジェンダーにとらわれない、職業選択、職業観になっているかに配慮する。

○ 資料「私のしょうらいの夢」について

1998年11月、県内から抽出した27校の小学校の高学年1080名を対象に、三重県女性センターが実施したアンケート調査「あなたは将来何になりたいですか？」の質問に対して回答があったものである。

「ゲーム関係」は、ゲーム制作、ゲームデザイン、ゲーム屋、ゲームセンターなどの回答をまとめたものである。

会社の中を、のぞいてみたら…

【ねらい】

- ・「女の仕事」「男の仕事」という偏見があることに気づく。

【すすめ方と留意点】

(1) P14を見て、社員等の言動から、「おかしいな」「変だな」と思ったことをP15のワークシートに書き、発表する。

- ・発表する中で、下記の着眼点の例等について気づかせる。
- ・相反する価値観が出てきた場合は、十分にその根拠を話し合うとともに、人を傷つけるような言動には十分配慮する。

○ 着目点の例

- ・ 屋上
男は外で働いて家庭を守らなければならないといった意識があること。
- ・ 4階の左の部屋
育児は女性がするものという意識があること。
- ・ 4階の右の部屋
女性を働きにくくさせている要因が社会の中にあること。
- ・ 3階の左の部屋
既婚女性が働くことを受け入れない社会意識があること。
- ・ 3階の右の部屋
重要なポストには男性が就くという意識があること。
- ・ 2階の左の部屋
男性は外で働くという意識があること。
- ・ 2階の右の部屋
介護は女性がするという意識があること。
- ・ 1階のロビー左
女性がお茶を出すという意識があること。
- ・ 1階のロビー右
女性が受付をするという意識があること。

○ 資料「育児休業をとった男性の話」について

資料は、実際に育児休暇を取られた方への取材記事である。

【聞き取りカード】

かた
おうちの方へ

聞き取りをした人の名前（ ）

1 仕事しごとをしていて、「うれしい」「良かった」と思ったのは、どんなときですか。

2 仕事しごとをしていて、「女性じょせいだから」「男性だんせいだから」ということで、不利益ふりえきを感じたり、不愉快ふゆかいな思いおもをおもしたりした経験けいけんはありませんか。その経験けいけんは、どんなことですか。

3 聞き取りきとして、あなたは、どう思おもいましたか。

自分の気持ち、言ってますか？

【ねらい】

- ・「イヤ」な言動にあった場合、「イヤだと言うこと」の大切さを知り、どんな言動をすればよいか考え、進んで実行する態度や行動を養う。
- ・より良い男女の関係を自分から作っていこうとする態度や意識を育てる。

【すすめ方と留意点】

- (1) P16の絵を見ながら気づいたことを、具体的な体験をもとに出し合う。
 - 「イヤ」と言うべき言動の例
 - ・冗談でたたいてくる。
 - ・からだや性器へのいやなタッチをする。
 - ・スカートめくり、ズボンおろし、のぞきなどをする。
 - ・チンゲリ、カンチョウなどをする。
 - ・性器、お尻などのプライベートゾーンを見せる。
 - ・いやらしいことばを言う。
- (2) どんな言動が「イヤ」と相手に感じさせるのか具体的に話し合うことを通して、イヤなことをされたり、言われたりしたときどうすればいいのかを出し合う。
 - ・誰にでも、基本的人権があり、基本的人権が侵害されたときには、はっきりと自分を守る行動をとることが大切であることを知らせる。
 - ・イヤなことをされたときの、こわい、恥ずかしい、悔しい、悲しい、腹が立つなど具体的なことを出させ、その気持ちを相手にすすんで伝えることが大切であることを知らせる。
- (3) はっきり「イヤ」と言えない理由について話し合う。
 - ・「イヤ」と言えなかった状況を詳しく思い出し、話し合わせる。
 - ・「イヤ」と言ったとき、受け止めてくれる人が回りにいないと言にくいことを知らせ、その気持ちを受け止める友だちが必要なことに気づかせる。
 - ・「イヤだ」「やめて」と言っている人を見たとき、どのような行動をすればよいか、考えさせ、一人ひとりが自分のこととしてとらえ、すすんで具体的な行動をとることが大切であることを知らせる。
- (4) 「やめて」と言われたとき、どうすればよいか話し合う。
 - ・これまでの話し合いをもとに、自分はどのように実行していくのかを出し合う。
 - ・話し合いに出てきた場面を再現して、「どうしたらいいのか」「何ができるか」を劇化するなど、より現実的に考えさせることも大切である。

自分らしさって、なあに？

【ねらい】

- ・これまで気づいていなかった自分の「よいところ」「好きなところ」を発見することを通して、一人ひとりのちがいを認め合い、互いが自分にはかけがいのない存在であることに気づく。

【すすめ方と留意点】

- (1) P18の○の中に、自分の写真を貼ったり、自分の絵を描いたりする。
 - (2) P18の□に、自分の「よいところ」「好きなところ」を書く。
 - (3) P18の□に、自分の「よいところ」「好きなところ」を友だちに書いてもらう。
 - (4) (2) (3)で作成したワークシートを発表し、だれのことを言っているのか当て合う。
 - ・今まで気づけなかった自分のよさに気づかせる。
 - ・今まで気づけなかった友だちのよさに気づかせる。
- ※P18のかわりに、ワークシート3（手引きP15）を使ってもよい。

- (5) ゲームをして、友だちの「よいところ」「好きなところ」をもらう。

(活動例)

A「Bさんの○○なところがよいと思うので（好きなので）、わたしにください」

B「どうぞ、もらってください」

「Cさんの○○なところがよいと思うので（好きなので）、わたしにください」

C「どうぞ、もらってください」

「Dさんの、……」

- ・ワークシート3（手引きP15）へ、友だちからもらった「よいところ」「好きなところ」を記入させる。
- ・一回りしたら、ならば順をかえたり、グループをかえたりして、ワークシート3へ記入する。
- ・このゲームを通して、自分の「よいところ」「好きなところ」に気づかせ、次の「自分への手紙」の活動につなげる。

- (6) 自分への手紙を書く。

- ・ワークシート3の活動から、発見した自分の「よいところ」「好きなところ」をもとに「自分への手紙」を書かせる。
- ・自分へ手紙を書くことを通して、肯定的な自己認識を深めるきっかけとする。

【ワークシート3】

わたしは、こんな^こな子です。

なまえ
名前 ()

自分の写真をはったり、自分の絵をかいたりしましょう

とも
友だちからもらった「よいところ」「好き^すなところ」

--	--	--	--

共に生きるなかま

【ねらい】

- ・ジェンダーにとらわれず自分らしさを発揮し、一人ひとりの違いを認め合いながら、共に生きていくことができる社会の実現が大切であることを知る。

【すすめ方と留意点】

(1) P20の絵を見て、気づいたことを出し合う。

- ・女、男、年齢などに関わらず、みんなが手をつないでいることに着目させ話し合う。
- ・これまで学習してきたことも生かしながら、自分の考えを発表させる。

(2) 自分の将来について語る。

- ・将来の夢や仕事、様々な人々との共生等について、一人ひとりが自分らしく生きるためには何が大切かを書かせ、発表させる。
- ・発表を聞いて、友だちへの感想などを生かしながら自分の夢をまとめる。

<視点>

- ・普段の自分自身の姿から考えをまとめる。
- ・ジェンダーにとらわれない。
- ・自己決定することの大切さを伝える。



2000（平成12）年3月
三重県教育委員会